

## こころの道

Nhân hậu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく  
ニャンハウ

かしこく  
トンミン

たくましく  
ホーエマイン



校長 佐藤之保

### 情報とうまく付き合う

校長 佐藤 之保

インターネット、テレビ、新聞、雑誌・・・多様な情報があふれるこの社会で、より幸せに生きるには、情報に振り回されないで、情報とうまく付き合うことが必要です。

「情報とうまく付き合う」とは、情報を理解するとき、その内容だけではなく、その情報の性質を理解し、判断し、行動していくことだと、私は考えます。

情報の性質について考える際に、心理学ではよく「主観的な事実」「客観的な事実」などという概念が取り上げられます。「主観的な事実」とはその本人がどう思ったか、どう感じたかによって、その見方が変わる事柄であり、「客観的な事実」とは、誰が見ても変わらない事柄です。

「昨日私は、楽しみにしていたレストランに行ってきました。思ったより店内は小さかったけれど、料理を食べて、とてもおいしかったので、幸せでした。」

さて、上の文で、「客観的な事実」は何でしょうか？

「昨日私がレストランに行って、料理を食べた。」という情報だけです。

そして、「楽しみにしていた」「思ったより店内は小さい」「とてもおいしかった」「幸せだった」という情報は、「主観的な事実」になります。

しかし、日常生活の雑談で実際にこんな話を聞いてしまうと、聞き手は「そのお店は料理はおいしくて、小さいのだろう・・・」などと、聞き手側のイメージに置き換えて理解してしまうことがよくあります。主観的事実と客観的事実を意識しないで理解すると、このようなことが起きやすくなります。

その人にとっておいしくても、自分にとっておいしいかは、わかりません。また、その人にとって小さいと感じる場所でも、自分にとって小さいかは、わかりません。

「うわさ」によるいじめなども、このようなことが原因で起きる場合があります。

その情報は、「主観的な事実」なのか「客観的な事実」なのか？ 客観的事実のように感じた場合でも、「その根拠は何なのか？」「裏付けるデータはあるのか？」・・・

こんな考え方が自然にできて、情報を取捨選択したり補足できれば、聞き手は、より自分にとって適切な情報を手に入れることができます。

もちろん、主観的だからこそ楽しい会話もありますから、それはそれで楽しめば素敵だと思います。聞き手が、情報を得る目的によって、その情報を選別して、理解することが大切であると考えます。

子どもたちには、情報を自分で選択し、考え、より豊かな人生を送ってほしいと思います。

学校評価アンケートのご提出、ありがとうございました。貴重な情報として、学校教育の改善につなげていきたいと思っております。結果については、別途、ご連絡致します。